

放射線から身を守るには？

放射線から身を守るには？

事故の時に身を守るには

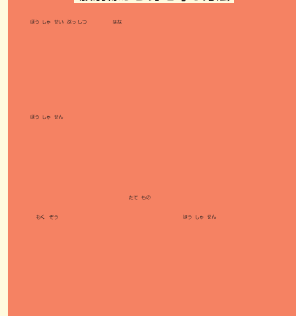
放射性物質を利用してある施設の事故によって、放射性物質が風に乗って飛んでくることがあり、この時に放射性物質から出る放射線を体の外からと体の中から受けることがあります。

体の外から受ける量を少なくする方法があります。一つは放射性物質から離れること、もう一つは放射線を受ける時間を短くすること、そして放射線を通しにくい建物の中に入ることです。建物の中に入った時は、放射性物質が建物の中に入らないようにドアや窓を閉め、外から空気を取り込むエアコンや換気扇の使用を控えるなどの対策を取ることが大切です。また、長袖を着ることにより、放射性物質が体に付かないようにすることができ、服や体に付いても放射性物質を洗い流すことができます。

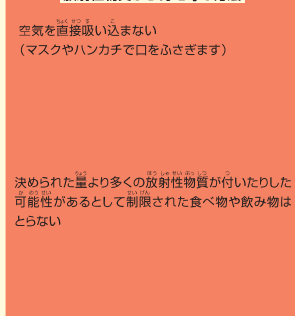
体の中から受けることから身を守るには、体の中に放射性物質が入らないようにマスクをしたり、放射性物質が決められた量より多く入ったりした水や食べ物をとらないように気を付けたりするなど対策を取ることが大切です。

なお、体の外から放射線を受けたことを原因として、人が放射線を出すようになることはなく、かぜのように人から人に伝染することはありません。

放射線から身を守る方法



放射性物質から身を守る方法



事故が起こった時の心構え

放射線を使っている施設で事故が起こり、施設の周りへの影響が心配される時には、市役所、町や村の役場、あるいは県や国から避難などの指示が出され、この指示に基づいて、学校から児童や保護者に指示が伝えられることがあります。

その際、うわさなどに惑わされず、落ち着いて行動することが大切です。

事故後の状況に応じて、指示の内容も変わってくるので注意が必要です。

また、時間がたてば放射性物質は地面に落ちるなどして、空気中に含まれる量が少なくなっていく、エアコンや換気扇などを使うことができ、マスクをしなくてもよくなります。このように、事故が収まってくれば、それまでの対策を取り続けなくてもよくなります。

退避・避難する時の注意点

正確な情報を基に行動する

- 一斉放送、広報車、ラジオ、防災無線など

退避

- ドアや窓を閉める
- エアコン(外からの空気を取り込むもの)や換気扇の使用を控える
- 外から帰って来たら顔や手を洗う
- 木造家屋より放射線が通り抜けにくいコンクリートの建物への退避指示が行われることもある
- 食器に蓋をしたりラップを掛けたりする

避難

- ガスや電気を消す
- 戸締まりをしっかりとる
- 避難場所へは徒歩で
- 持ち物は少なく
- 隣近所にも知らせる

退避と避難は、どちらも放射性物質から身を守ることであり、「退避」は家や指定された建物の中に入ること、「避難」は家や指定された建物などからも離れた別の場所に移ることです。

話し合ってみよう

退避や避難をする時、どのようなことに気を付けたらよいか、学校や家庭で話し合ってみよう。

学習のポイント

- ◎ 事故が起こった時に放射性物質から身を守る対策を学ぶ。
- ◎ 事故が起こった時は、学校の先生や保護者の指示に基づいて行動することを学ぶ。
- ◎ 事故後しばらくたつと、それまでの対策を取り続けなくてもよくなることを学ぶ。

指導上の留意点

- ◎ 放射線から身を守る対策について理解できるようにする。
- ◎ 事故後しばらくたつと、放射性物質が地面に落下などすることから、それまでの対策を取らなくてもよくなることを理解できるようにする。